

著者に訊く OUSBooks

オンリーワンを求めて

滝澤 昇・佐藤幸子 編
近代科学社



● 科学を選んだ先輩からのメッセージ



バイオ・応用化学科

滝澤 昇 教授

○ 滝澤先生のご専門の内容について教えてください。

微生物を利用したバイオテクノロジーについて研究しています。私たちの身近にいるバクテリアや酵母、カビなどの微生物が生きる力を利用して、新しい食品・医薬品・エネルギーを作る技術の開発や、様々な化学物質で汚染された環境をきれいにする技術の開発をしています。最近では、乳酸菌を使った豆乳ヨーグルトの製造技術や、水槽の中に蓄積する硝酸を窒素に還元する脱窒菌の機能を利用する水質浄化技術の研究に取り組んでいます。

○ 「オンリーワンを求めて」の出版の経緯を教えてください。

日本人には、「科学」は難しく理解できないという、ある種のコンプレックスを持っている人が大勢います。中学高校では、理科(科学)は理論が中心となり、次第に現実の生活体験と離れることで、難しく感じられるのでしょうか。それが子供たちの科学離れにつながっているのでしょうか。でも科学を体験することは、心がワクワクすることなのです。この気持ちを中学・高校生に伝えたいと考えたからです。

○ 「オンリーワンを求めて」は、どのような内容の図書でしょうか？

難しく感じる人も多い「科学」ですが、子供のような気持ちを持って心踊らせて科学を楽しんでいる人達がたくさんいます。大学の教員や大学院生、企業の研究者がそうです。そこでこの本では、本学の教員や、一緒に研究をしている企業の研究者の方々30数人に、なぜ研究の道に入ったのか、そのきっかけや、研究する楽しみ、魅力について語っていただきました。また第1部では、「オンライン自然科学教育ネットワーク(ONSEN)」を主催し、子供たちに科学の魅力を伝える活動を行っておられる山田善春先生からのメッセージを、さらに第3部は、山田先生の他に理科教育の左巻健男先生、本学の衣笠先生、2人の大学院生、それに私が加わった座談会で、科学に入るきっかけ、研究生活の楽しみや悩みなどについて語りあっています。この本では科学の様々な分野の魅力が語られています。ともすれば今自分がいる分野しか見えないものですが、この本を読んでいただくことで、視野が広がり、広範な分野での「科学する」魅力を感じて頂けると思っています。

○ 図書館を使う学生にメッセージをお願いします。

インターネットで様々な情報が簡単に得られる時代ですが、情報は個別で断片的です。本には、その本がテーマとする情報がまとまってぎっしりと詰まっています。図書館にはそんな本がたくさんあります。インターネットと図書館を上手に使い分けるとよいですね。